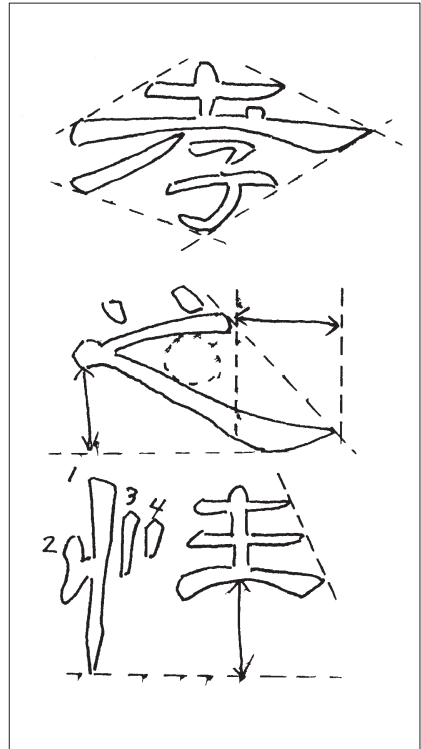


◆半紙一行たて書きに臨書して下さい。出品料420円

曹全碑 後漢



- 1、字句「孝之性」
 - 2、形式「半紙タテ使用。中央に「孝之性」と臨書し、左余白に「○○臨」と調和を工夫して書き入れる。
 - 3、概観「曹全碑」の縦画は、横画に比べて変化は少なく、起筆は軽く鋒先を上げて蔵鋒とし、そのまま下に引く。収筆も止めたらそのまま筆を引き上げる。縦画は文字の柱である為、上の筆画を支え、あるいは均衡を保つ役割がある。原則として、縦画が中心にあるときは垂直に書かれるが、中心からはずれた場合は、その位置により湾曲を呈するものもある。また、左右に向かいあう画は、向勢で、文字のすそを締めているものが多い。
 - 4、各字のポイント
 - 孝 三画目の長横画は、起筆にて蔵鋒にしてから筆をしっかりと突き、中心に向かって筆を引き上げ、収筆はのびやかで美しい。次画は本来は一画で書くが、点を書いてから左払いを書く。「曹全碑」ではこのように書くことが多い。「子」はあまり大きくならないように注意したい。
 - 子 三画目（横に書いたかと思えるような）は思いきって反らせ、四画目との間に大きな余白をとる。
- 性 「曹全碑」では、立心偏はこのように篆書の名残りをとどめている。二画目縦画を書いてから斜め右上に。旁は「ノ」が欠けているが、「曹全碑」ではよく見られる。

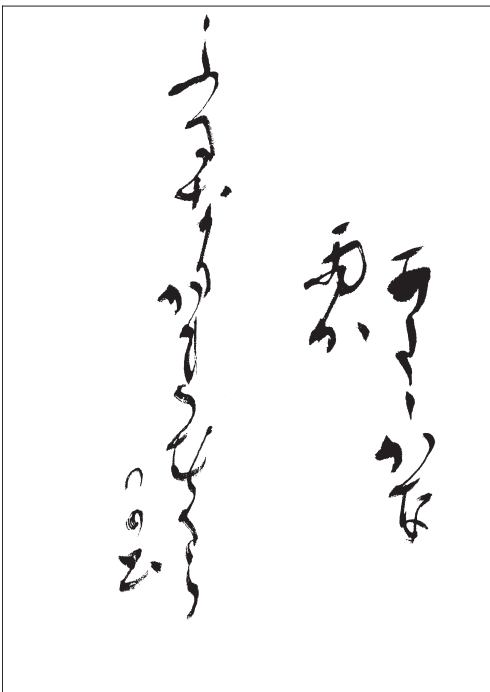
昇試第三部 (漢字・かな) (予告) (三月二十二日締切)

平岡華雪先生書 江山花柳に満つ(劉因)

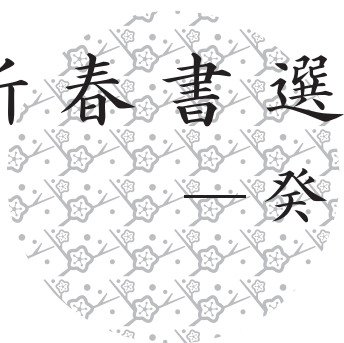


訳：春が山にも川にも訪れ花や柳が満ちわたる。

平岡華雪先生書 あたゝかな雨が降るなり枯葎かれむら(子規)



新春書選



— 癸巳 —



高橋香樹主幹書

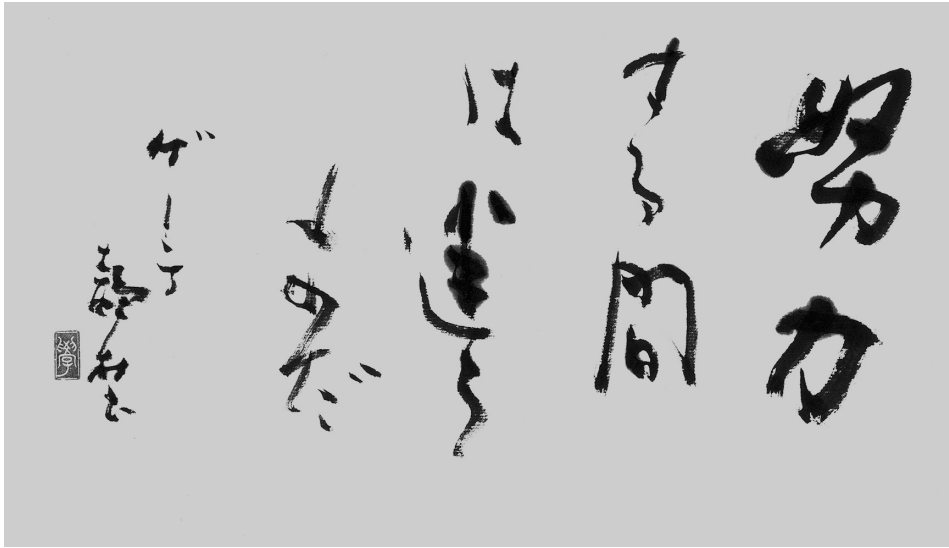
樂
春



平岡華雪先生書

雪裏開花

鈴木静村会長書



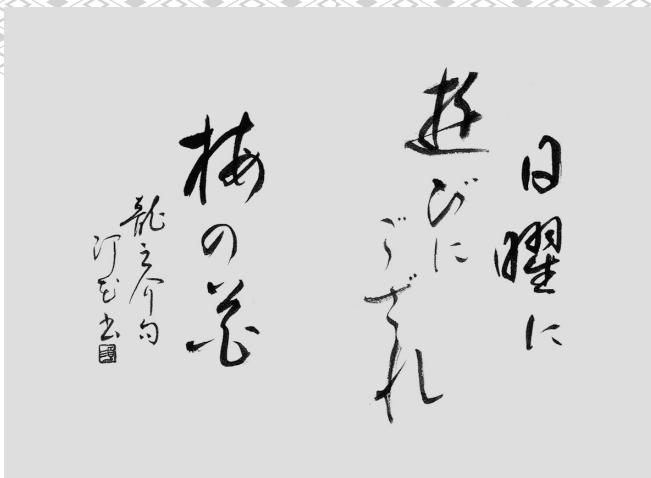
努力する間は迷うものだ (ゲート)

※ 今年は八巳^み年。干支^{えと}では癸巳^{きし}(みずのと)、十干と十二支を組み合わせた最初の「甲子」から今年は30年目の中間年。あと30年で「還暦」という意義ある『癸巳』の本年であることを銘記したい。

この干支は特に私たちの書道と関連があり、※印で註記の十干、十二支を順次組み合わせ、干支60年を作成されることを勧めたい。

※ 十干 甲乙丙丁戊己庚辛壬癸
十二支 子丑寅卯辰巳午未申酉戌亥

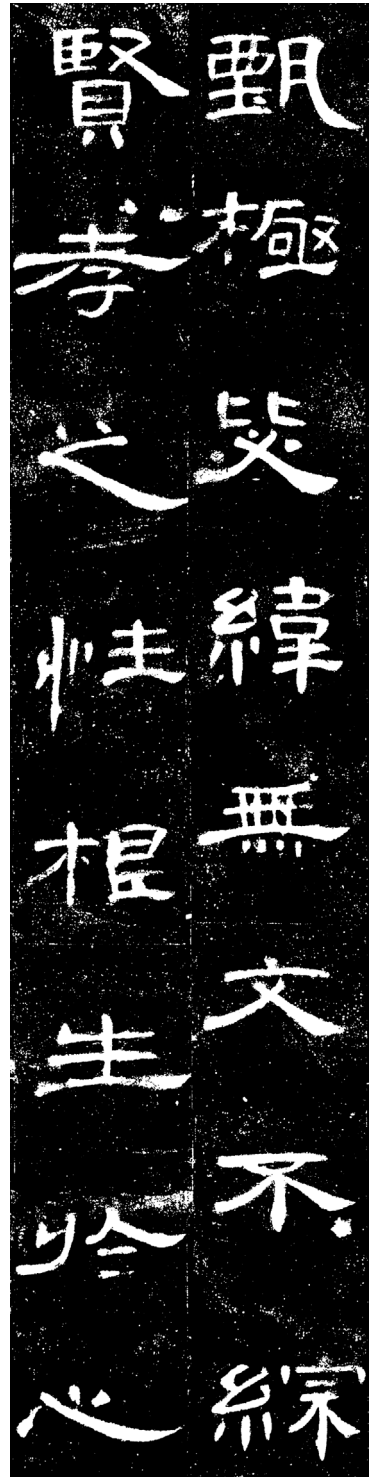
会長 鈴木静村



松本汀花先生書

日曜に遊びにござれ梅の花 (芥川龍之介)

曹全碑



甄極恣緯。無文不綜。賢孝之性。根生於心。

恣緯ひいを甄極けんきやくし、文として綜すべざる無し。賢孝の性は、心に根生し、

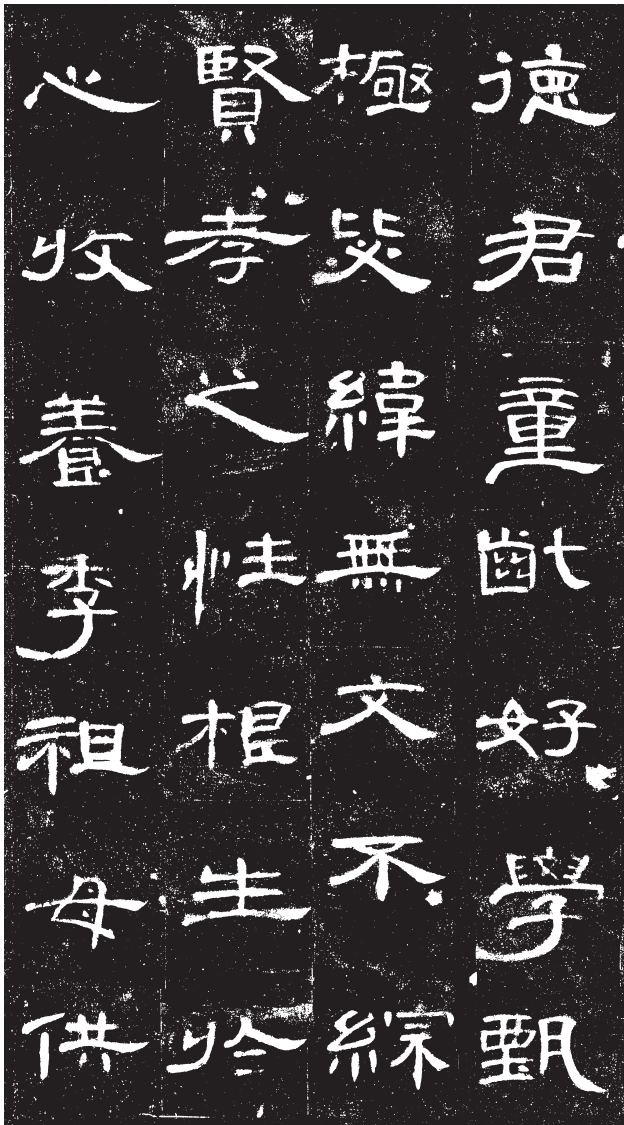
条幅臨書部は半紙臨書部と連動しています。半紙に取り組んだ方は是非条幅にもチャレンジしてください。また条幅だけ出品も大歓迎です。

▽字詰め自由。

▽落款は「〇〇臨」と調和を

工夫し書き入れる。

▽出品料五二五円。



◆注意 ・条幅臨書部の出品はバーコード券右空欄に条臨と記入する。

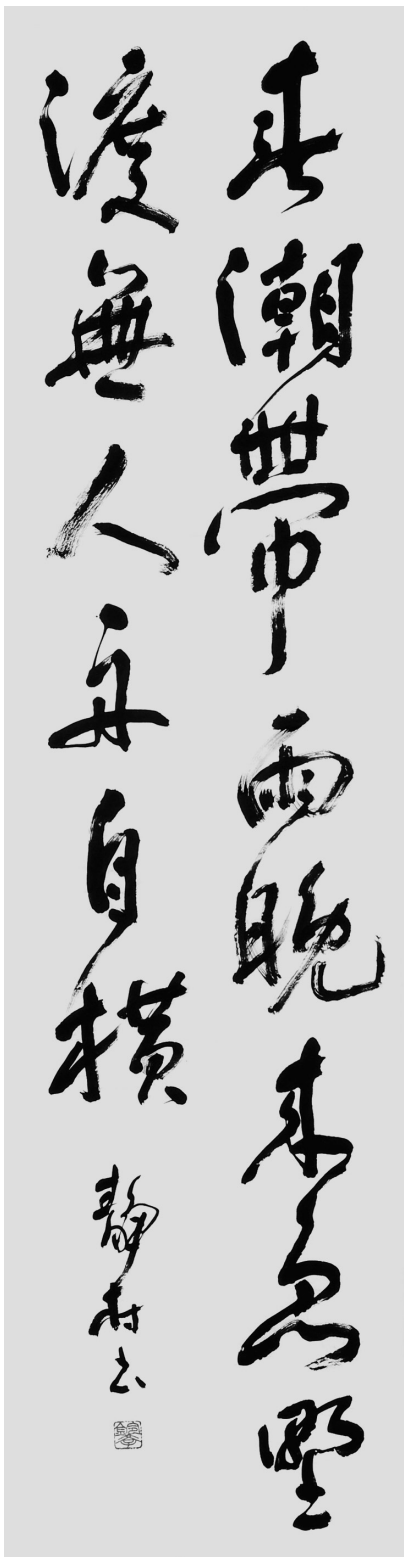
A 高橋香樹主幹書

春潮帯雨晩來急 野渡無人舟自横 (韋応物)
春潮雨を帯びて晩來急に野渡人無く、舟自ら横たわる。



B 鈴木静村書

近年多数の木簡が発見され、その多様な姿に驚かされる。今回作は木簡の特徴である波磔を多用してみた。波磔は力強さを求めて書す。「潮」のサンズイを上部に纏める形は隷書によくある。「帯」の終画を伸ばすのは木簡ではよくある形。「石門頌」の「命」にも見られる。「舟」も木簡・隷書ではこの形。



「春潮帯」漸次大きく、帯 私の好みの書体、みなさんは字典参照。来 墨継ぎ、急へ連綿。無 この書体も多い。字典から確実に。舟 墨継ぎ。末画の横画を下辺にすると整正。・特にポイント 今回は四ヶ所連綿、この連綿線の形だけを真似すると却って嫌味。形に捉われず気持ちのつながりへの意識を重視。訳：春の潮は雨もようとなって、暮頃よりはげしさを増し渡し場には人気もなく、舟がおのずと横たわっている。

予告 昇試第一部漢字(三月二十二日締切)

眼梢強合終無睡

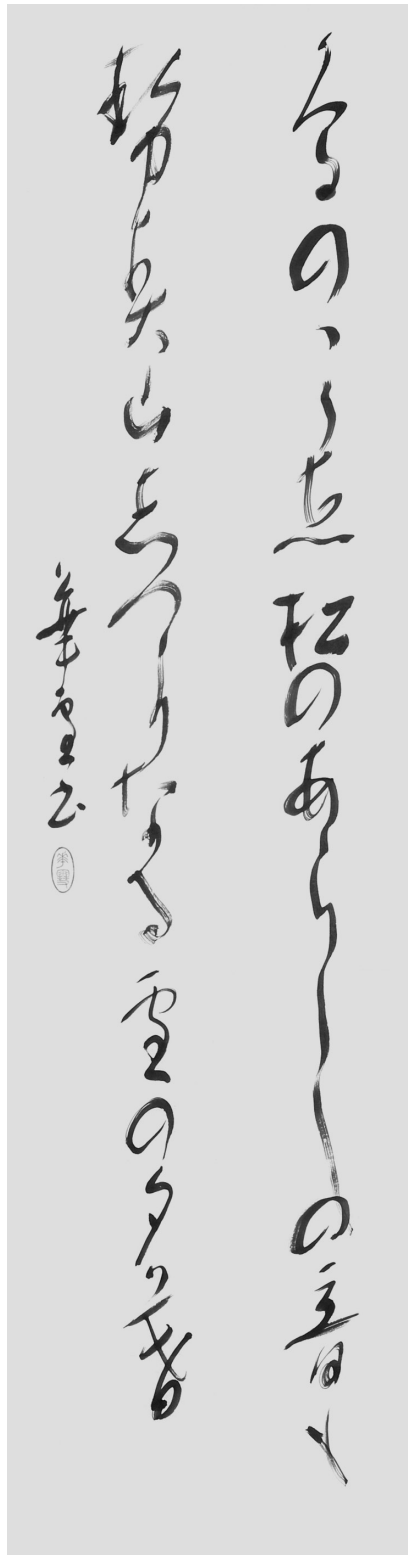
脚底相摩也不温 (楊誠齋)

- ◆注意
- ・条幅部の出品は一人一点 (バーコード券の条漢を○で囲み(1)と記入する。)
 - ・二枚目からの出品 (バーコード券の条漢を○で囲み()に何枚目か数字を記入する。出品料525円)

A

平岡華雪先生書

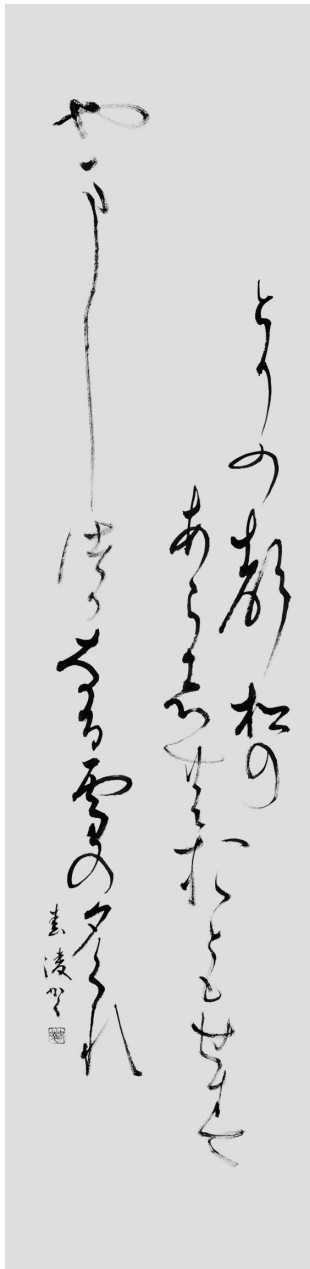
鳥のこゑ松の嵐のおともせず山しづかなる雪の夕ぐれ (風雅和歌集 永福門院)
鳥のこゑ松のあらしの音も勢春山志つ可なる雪の夕暮



B

武井春凌先生書

とりの聲松のあらし農於ともせ春や万し徒可奈る雪の夕ぐれ



学び方

歌意―鳥のさえずりも、松の梢を吹き渡る嵐の音も、何も聞こえてこないことだ。山のひっそりと静まり返ったこの雪の夕暮れであるよ。

三行書きにしてみました。一行目は低く書き出し、二行目は一行目に添って書き、三行目は渴筆をきかせ、「奈」で墨継ぎをします。上部と二行目と三行目の余白を意識して余白の美を考慮してみました。

永福門院

(二七―三四)

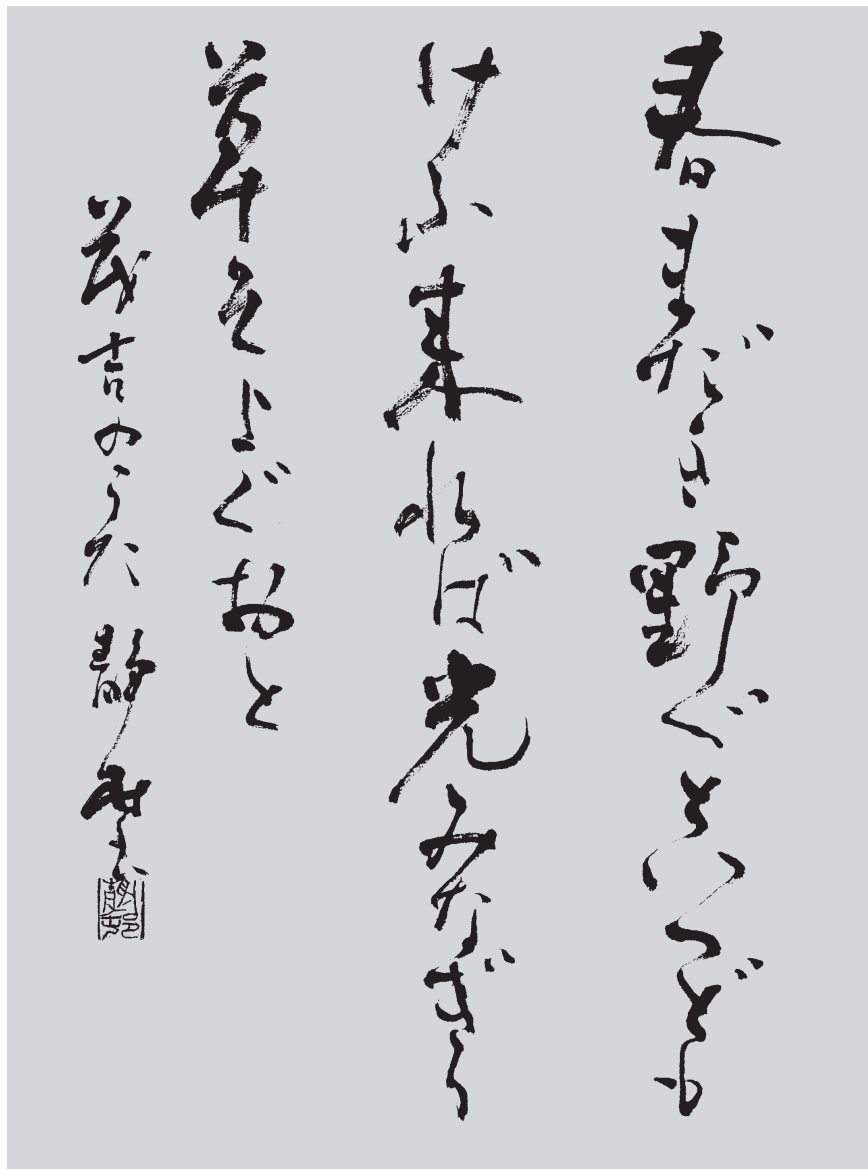
西園寺実兼の長女。母は内大臣源道成女、顯子。伏見天皇の女御となり次いで中宮となる。「風雅和歌集」六九首選ばれている。京極為兼、伏見院と共に京極派和歌を代表する歌人で、乾元二年(一三〇三)の仙洞五十番歌合を始め、京極派の歌合、歌会に主要メンバーとして参加した。

予告 昇試第一部かな(三月二十二日締切)

あをによしならの都は咲く花のにはふがごとく今盛りなり(万葉集)

- ◆注意 ・条幅部の出品は一人一点(バーコード券の条かを○で囲み(1)と記入する。)
- ・二枚目からの出品(バーコード券の条かを○で囲み()に何枚目か数字を記入する。出品料525円)

鈴木静村書



・「濁点」について

濁点はいっ打ってもよい。例えば一行目の「だ」は次字「き」を書いてから打っている。「べ」はすぐ打っている。「ど」は「も」を書いてから打っている。二行目の「ば」「ぎ」、三行目の「ぐ」についても、各自確かめてほしい。それより大切なことは、どこへ打つか、どの大きさに打つかである。

してはいけない

ことは、○近過ぎること。小さく可愛らしく打つこと。

理由は、「行間

への配慮をしてほ

しいから——。点

を利用して行間を

縮めるコツを会得

できれば、作品は

一段とよくなる。

・墨継ぎ「光」「茂

で少し。

・落款は一行で

茂吉のうた

○○書④

春まだき

野べといへども

けふ来れば

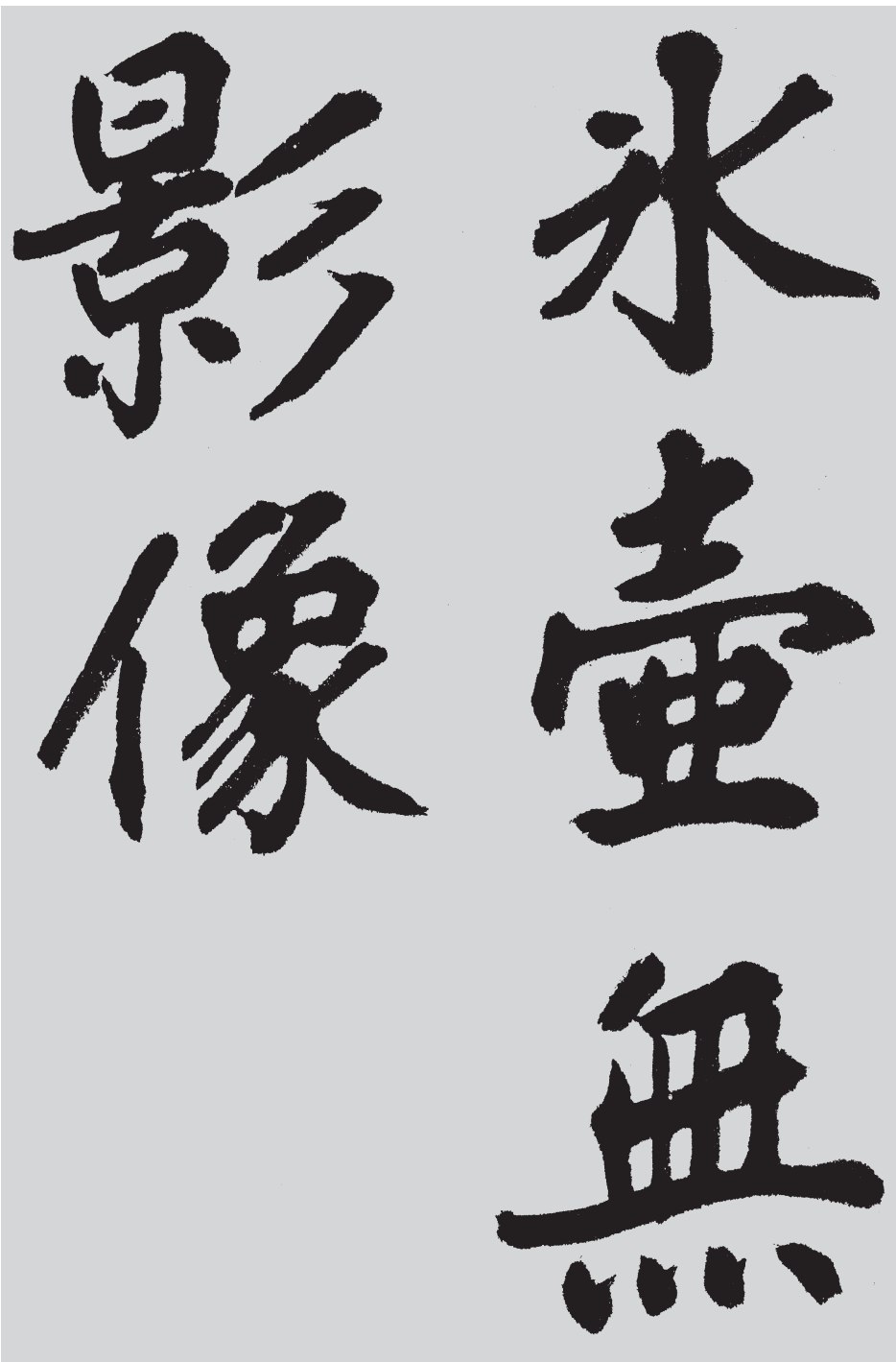
光みなぎり

草そよぐおと

(齋藤茂吉)

◆注意…はじめて出品される方は私製の紙(3×4cm位)に次の4項目を記入して作品左下隅に貼って出品して下さい。出品料525円。

①バーコード券右空欄に漢かと記入 ②支部名または都道府県名 ③氏名または雅号 ④新



平岡華雪先生書

氷壺影像無し。(槐安國語)

訳：すきとおって影なし。心中一点の暗影なし。

〈各文字の終わりが大切〉

終末部分の用筆は大切です。一文字のノとなるからです。

「氷」の右払い、「壺」の横画、「無」の連火、「影」のさんづくり、

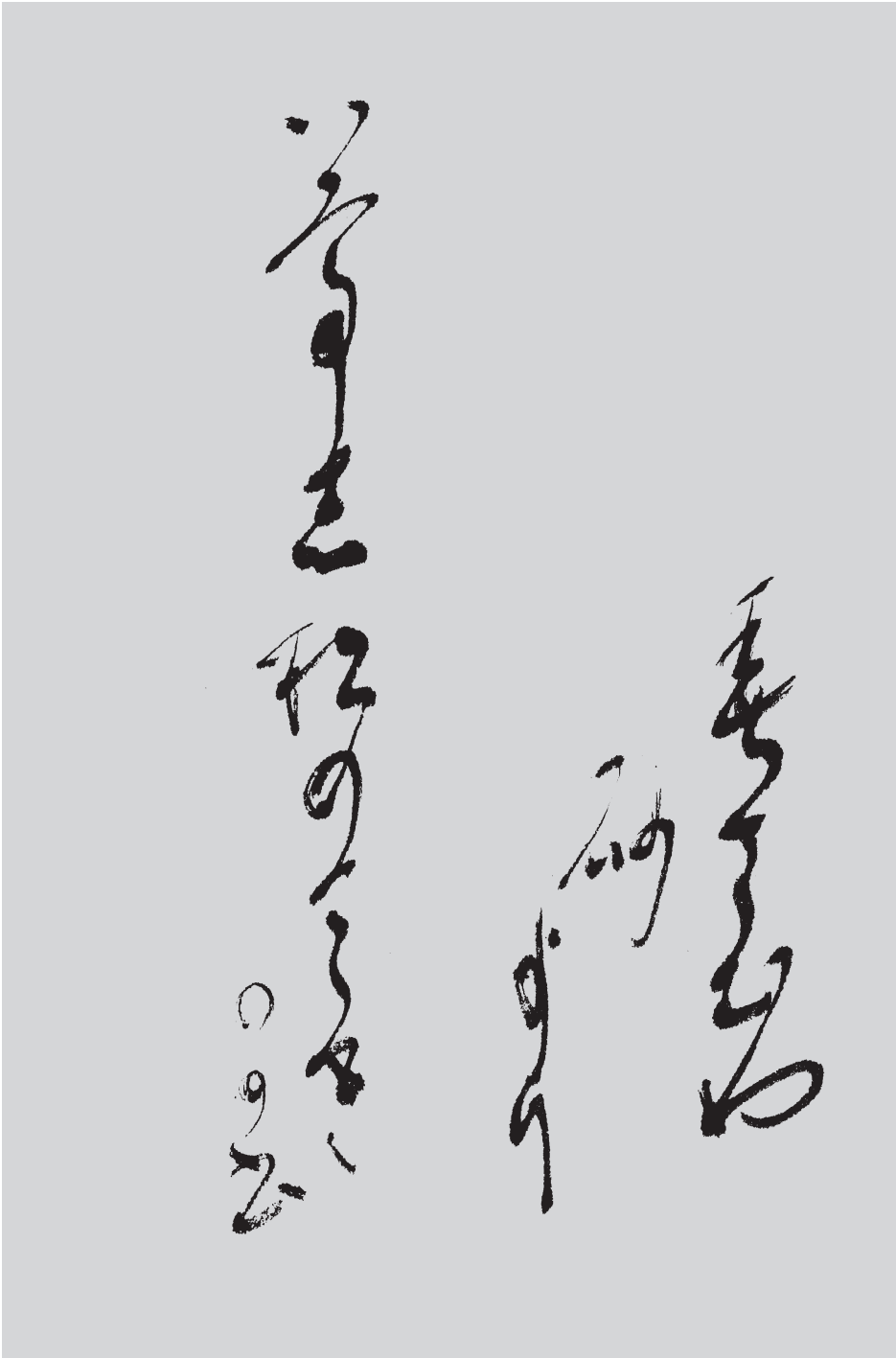
「像」の右払い等、ここで、用筆が甘くならないよう留意のこと。

◆注意…はじめて出品される方は私製の紙(3×4 cm位)に次の4項目を記入して作品左下隅に貼って出品して下さい。会員は無料、会員外出品料は420円。

①漢字部 ②支部名または都道府県名 ③氏名または雅号 ④新

平岡華雪先生書

春寒や砂より出でし松の幹（虚子）
春さむや砂よりい亭志松の三き



〈構成、筆意の概観〉

右群「春さむや」四字連綿、「砂」に対して「より」を左に添え別物にならぬよう留意したい。左群は「より」の筆調を受けて「い亭志」へ。こゝも三字の連綿、一般的には渴筆の部分。行頭「い」で墨継ぎは不可。墨を継ぐ場合は「松」が適切ですが、ひと筆書きもあり。落款は「三き」に寄せ調和的に。

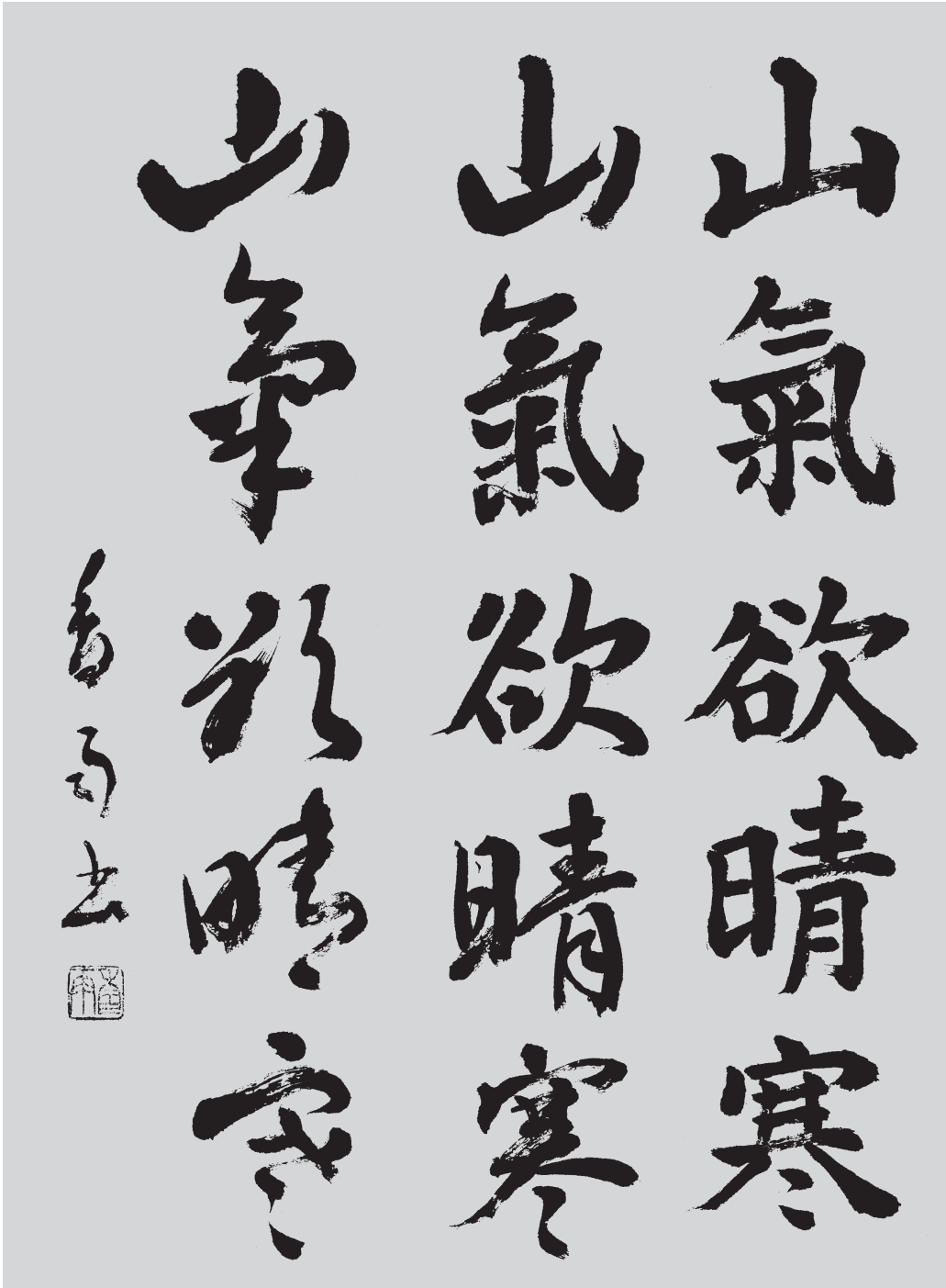
◆注意…はじめて出品される方は私製の紙（3×4 cm位）に次の4項目を記入して作品左下隅に貼って出品して下さい。会員は無料、会員外出品料は420円。

①漢字部 ②支部名または都道府県名 ③氏名または雅号 ④新

酒井香雨先生書

山氣欲晴寒（歐陽修）
山氣晴んと欲して寒し。

訳：山氣は日の暮れるとともに俄につよくなる。



予告 昇試第一部漢字（三月二十二日締切）

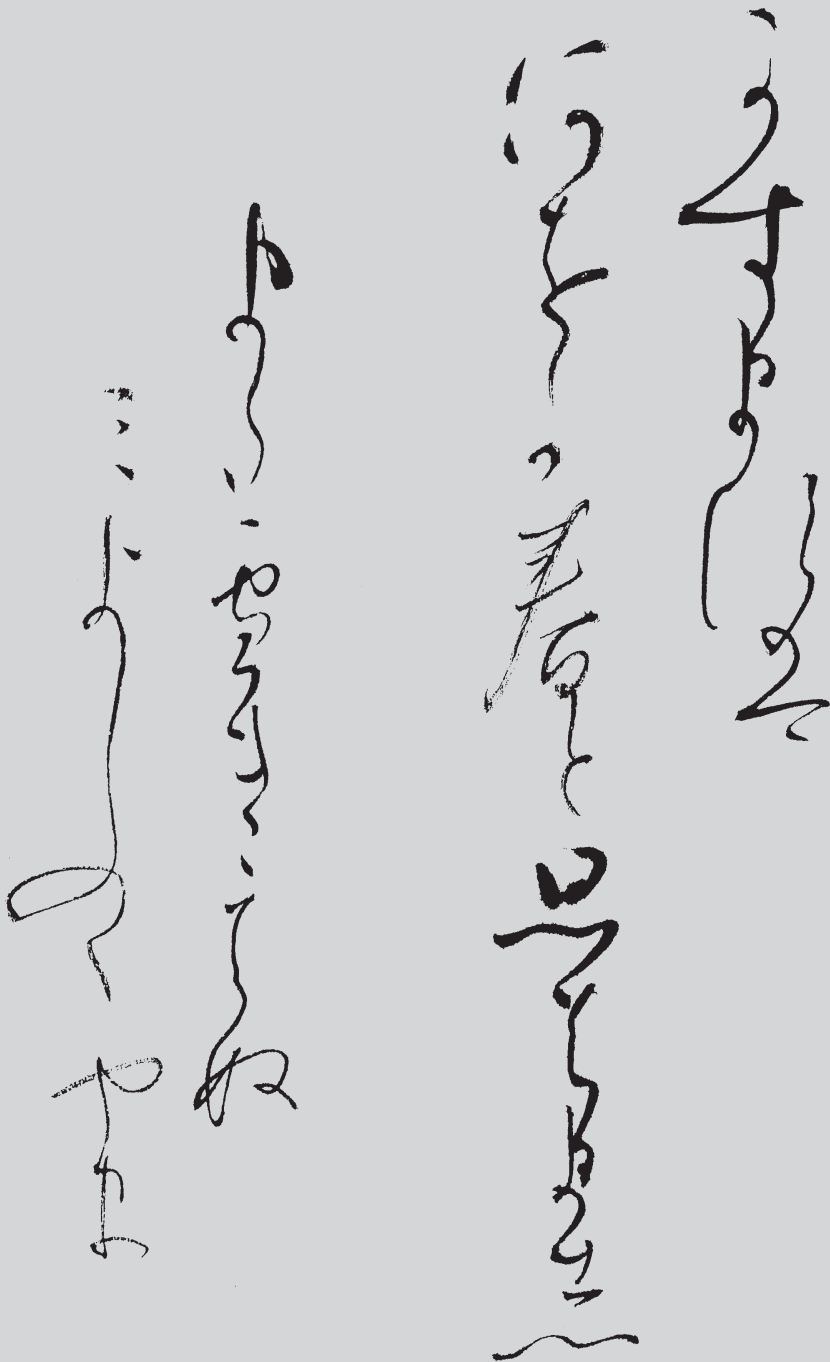
春眠不覺曉（孟浩然）

1. 随意部参考として出品してください。
2. 会員外の出品料は420円。

随 意 部 参 考

高塚竹堂先生書

かすま^かずは^かな^かに^かを^かか^か春^かとお^かも^かは^かま^かし^かま^かだ^か雪^かき^かえ^かぬ^かみ^かよ^かしの^か山^か（山家集 西行）
可^かす^か末^か須^か盤^か何^かを^か可^か春^かと思^か者^か末^か志^か末^か多^か雪^かき^か衣^かぬ^か三^かよ^かしの^か、^かや^か末^か



予告 昇試第一部かな（三月二十二日締切）

わがやどの垣根の草の浅みどりふる春雨ぞ色はそめける（能宣）

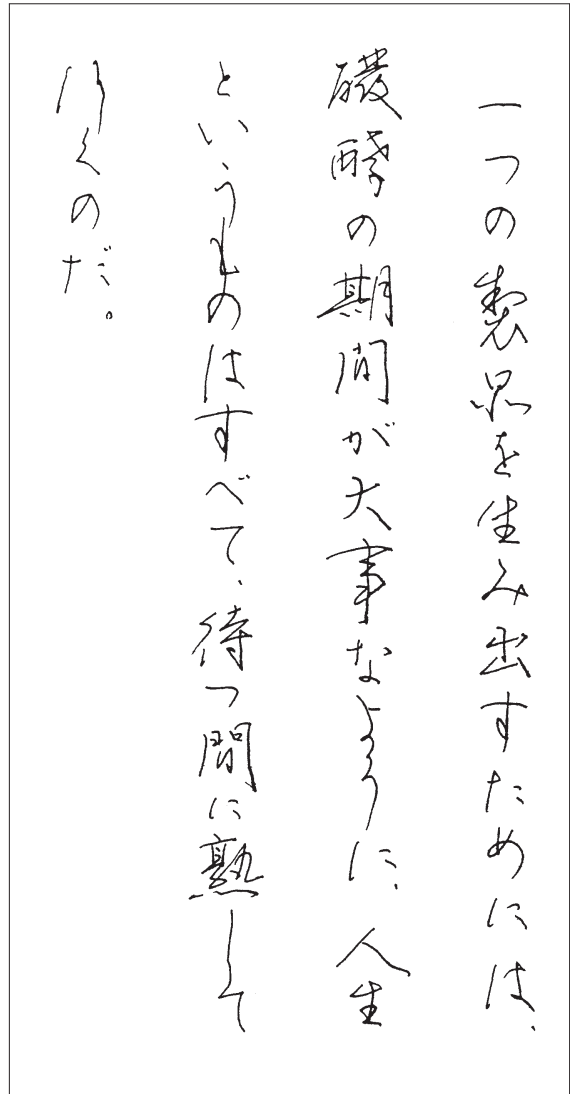
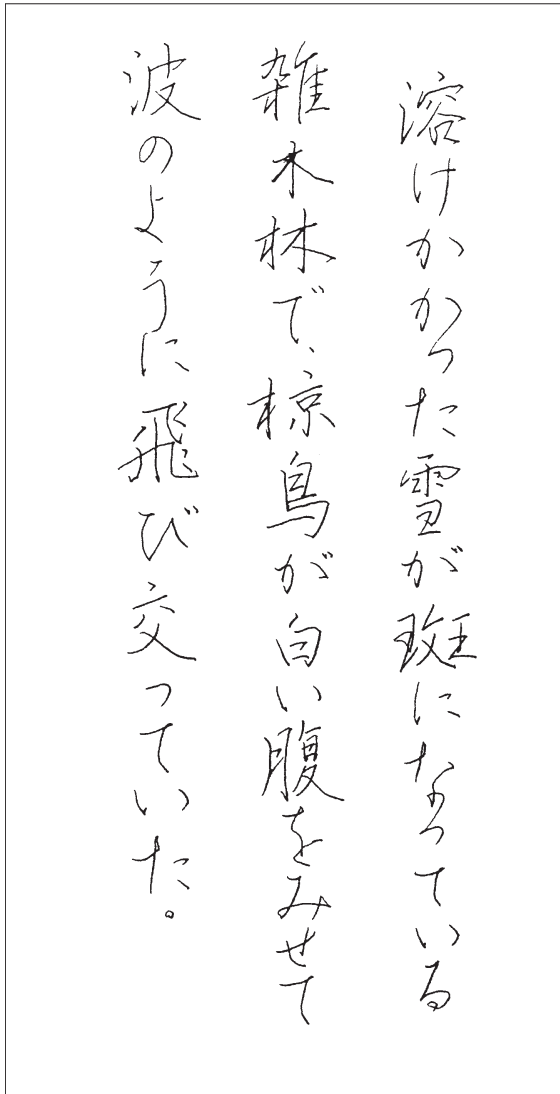
1. 随意部参考として出品してください。 2. 会員外の出品料は420円

松浦江波先生書

石原春香先生書

課題2 (初段階以下)

課題1 (初段階以上)



課題1 (初段階以上)

一つの製品を生み出すためには、醗酵の期間が大事なように、人生というものはすべて、待つ間に熟して行くのだ。

「果て遠き丘」三浦綾子

◆注意

- (1) 自分の段級に合った課題を選択。
- (2) ペンまたはボールペン(黒色)を使用のこと。青インクは不可。
- (3) 段級欄は本人が記入(色は黒)はじめて出品される方は私製の紙(3×4 cm位) 次の4項目を記入して作品左下隅に貼って出品して下さい。①硬筆部②支部名または都道府県名③氏名または雅号④新
- (5) 会員は無料・会員外は四二〇円

課題2 (初段階以下)

溶けかかった雪が斑まだらになっている雑木林で、椋鳥むらさきが白い腹をみせて波のように飛び交っていた。

「夢のあと」立原正秋